総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要（令和元年度）

２．分野別状況（２）地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野 （５／７）

	総合評価（ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算）	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見（主なもの）
千年の草原の継承と創造的活用総合特区（阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町）	3.7	4.3 進捗度 ・草原管理面積、野焼き再開牧野数 99% ・牛馬の放牧頭数 ≪定性的評価≫ ・観光入り込み総数、阿蘇地域の宿泊客数 ≪定性的評価≫ ・あか牛肉料理認定店数 96% ・草原体験利用者数 ≪定性的評価≫	3.3 財政支援等 ・生物多様性保全推進交付金事業 地域独自の取組 ・ASO環境共生基金事業 ・入湯税収観光活用事業 等	3.5	・自然資源や農業資源に恵まれ，観光の好適地であるが，その一方で，一連の自然災害によって本来あるべき力が発揮できずにいる。そんな中でも，採草，牧野，焼き畑のための草地管理の維持がほとんど行われ，高齢化が進む中にあっても牧野組合数も引き続き1組合増加し，かつ，放牧頭数も平成30年度のデータであるが大きく増加している。地域の活力が回復を生んでいるのであり，取組の方向性が正しいと評価。 ・評価指標（2）「牛馬の放牧頭数」や、評価指標（3）－①「観光入り込み総数」、評価指標（3）－②「阿蘇地域の宿泊客数」、評価指標（5）「草原体験利用者数」について、令和元年度のデータが反映されておらず、そもそも、これらの指標が適切なのか、速報値を入手できないのかといった疑問も生じるが、平成30年度の数値を見ると、いずれも当初の平成28年度よりは増加している。 ・コロナ禍の下でインバウンドを含む観光客の増加がしばらく期待できない中、足元を固めて機会を待つしかない。学校教育との連携は特筆される。近隣地域との連携を強化していくのが当面の方向であり、国内・近隣県からの固定的な誘客戦略が重要になると考えられる。その意味でエコツーリズムを掲げ教育力プログラムを造成する等の取り組みは評価。